

福島県西会津町教育委員会

【自治体 関連URL】 <https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp>

【総人口】5,610人

【主担当部局】西会津町学校教育課
（公立小学校担当）

【主な関係部局】西会津町福祉介護課
（こども園担当）

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数				1					1	
園児・ 児童数				116					196	

事業実施地域・
協力園校

【実施地域】

福島県耶麻郡西会津町

【協力園校】

幼：公立保育所型認定こども園 1 園

小：公立小学校 1 校 中：公立中学校 1 校

架け橋期の
カリキュラム開発
会議

【会議委員人数】

14名

【開催数】

3回

【委員属性】

大学教授 1 名 公立認定こども園園長・副園長 2 名、こども園年長組担任 1 名、公立小中学校長 2 名、小学校教務主任 1 名、小学校 1 学年担任 1 名、こども園保護者 1 名、小学校保護者 1 名、家庭教育支援員 2 名、学校教育アドバイザー 1 名、幼児教育保育アドバイザー 1 名

架け橋期の
コーディネー
ター等

【配置人数】

3名

【経歴】

- ・元公立中学校長
- ・元公立小学校長
- ・元こども園副園長

架け橋期の
カリキュラム

【開発主体】

福島県耶麻郡西会津町

（1 公立保育所型認定こども園、1 公立小学校）

カリキュラム開発会議

【令和4年度 協議内容・方針等】

【第1回】

- ・会長と副会長の役員決定。
- ・ICTやオンラインを活用して先生方の負担軽減や話し合いを時間の効率化を図りながら取り組む。
- ・カリキュラム概要版について部会ごとに協議。完成後はリーフレットを作成して家庭・地域配布する。

【第2回】

- ・部会で協議した素案をもとに、カリキュラム概要版を作成。テーマを、保小中&家庭・地域が力を合わせて育てよう「挑む心とやり抜く力で、未来を創る西会津っ子」とした。
- ・部会からの意見を参考に修正して、10月の保育士・教員合同研修会で再検討。

【第3回】

- ・カリキュラム概要版を作成することで、こども園としてのビジョンが見えてきた。小学校は幼児期の活動に対して意識を変える必要がある。
- ・西会津町の特色を活かした、ミネラル野菜を軸としたカリキュラム概要版が完成。

（別添資料1）

【令和5年度 協議内容・方針等】

【第4回】

- ・昨年度はコロナ禍の影響で体験・交流活動が予定通り実施できなかった。今年度は計画に基づきこども園と小学校が協働して町特産のミネラル野菜栽培を通して、年長児と小学1年生だけでなく、保育士と小学校教員の連携の実施を図る。
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」について5月と2月にアンケートを実施。
- ・小学校の教員とこども園の保育士の情報交換の時間を確保する。



【第1回開発会議 教育長あいさつ】



【第2回開発会議 部会協議】



【第4回開発会議 指導助言】

カリキュラム開発 会議

【第5回】

- ・1学期のこども園と小学校の取組の反省及び今後の活動について確認。
- ・アプローチ・スタートカリキュラム版を年度内に作成することの確認。
- ・広報活動として、町のホームページに「幼保小の架け橋プログラム」を掲載。

【第6回】

- ・5歳児から小学1年生の架け橋期のアプローチ・スタートカリキュラム版の完成。
（別添資料2）
- ・ミネラル野菜づくりと「10の姿」との関連を作成。（別添資料3）
- ・今年度の成及び課題についての協議。



【第6回開発会議 今年度の取組説明】

【会議設置による成果と課題】

- ・10の姿が保育士や教師など参加者に広く周知することができた。改めて架け橋プログラムの取組の重要性が再認識された。
- ・令和4年度は、新型コロナ禍の影響で全体的に計画に変更を余儀なくされた。今年度は、合同ミネラル野菜栽培の苗の植え付け・収穫などの交流や先進地視察を予定通り実施できた。
- ・架け橋の活動を、町のホームページに掲載し町民に広報することができた。さらに、ケーブルテレビを活用も考えたい。
- ・小学校の全職員がこども園を参観したのは成果である。次年度は参観時の視点を設定しさらに幼児教育について理解を深めたい。
- ・こども園や小学校に架け橋の取組の掲示コーナーを設定し、園児や児童さらに保護者が興味深く掲示物を見ていた。また、保護者にはアプリを通して通知できた。
- ・西会津町特産のミネラル野菜を軸とした取組を、小学2年生から中学3年生まで活動を広げる必要がある。



【小学校の架け橋コーナー】

架け橋期のカリキュラム

【開発プロセス・架け橋期のカリキュラムの概要】

- ・カリキュラム概要版は、保小中 & 家庭・地域が力を合わせて育てよう「挑む心とやり抜く力で、未来を創る西会津っ子」をテーマに、町特色を活かしたミネラル野菜とかかわりながら成長することを軸にした、0歳から15歳の中学3年生までの取組内容である。
- ・架け橋期であるアプローチ・スタートカリキュラムを作成した。特徴は、3つの資質能力として、幼児期は「学びの芽生え」、小学校は「自覚の学び」と位置付けた。期間も2～4か月を期としてとらえ目標と10の姿との関連を記載した。
- ・福島大学の原野教授より指導助言を受けたり、カリキュラム開発会議で発達段階に応じた子どもの姿や家庭、地域での取組など項目ごとに三部会で協議して作成した。



【保育士・教員研修会】

【架け橋期のカリキュラムの実践】

- ・ミネラル野菜栽培の畑を舎の裏側にあるため、畑の管理や作物の成長を見る機会が少ない。可視化できる校舎の表側で活動する予定である。
- ・こども園と小学1年生との交流より、小学校進学に対する不安が解消されたり、「まねしたい」の気持ちや言葉や文字などへの興味・関心が高まった。
- ・小学1年生の児童の姿は、話し合いが積極的に発言したり、聞いたり、自分で考えて自分で行動する姿が見られるようになった。
- ・子どもたちが小学校のことを知り、安心して進学することができる取組を5歳児に設定することは重要であると考えられるようになった。
- ・入学当初の配慮や授業の進め方も注意するだけでなく良い姿をほめたり、子どもからの発想を大事にして否定しないなど指導の変化が見られた。



【こども園の展示】

次年度への展望

【成果と課題】

- ・ミネラル野菜づくりと「10の姿」の事例や園と小学校に架け橋コーナーを設置した。園児や児童は、展示したものに興味・関心を持つようになったり、畑や自然と触れ合う野外活動では、今までより深まりのある発言が見られるようになった。
- ・昨年度にカリキュラム概要版、今年度はアプローチ・スタートカリキュラムを作成して、0歳から15歳までの全体的な取組を整理・実践することができた。さらに、具体的に実効性のあるものにする。
- ・保育士・教員合同研修会では、カリキュラムの理解を深め同じ方向性のもとに教育活動ができるようになった。
- ・相互教育や授業参観を実施することで、遊びを通して学ぶ教育と幼児教育を活かす教育活動についてお互いに理解するなど、意識の変化が見られるようになった。今年度はお互いの交流を主としたが、次年度は参観時の視点を設定したい。



【ミネラル野菜栽培】

【展望】

- ・小学2年生から中学3年生までのミネラル野菜とのかかわりながら成長する取組を具現化する。
- ・幼児教育についての研修会を実施し、架け橋期のカリキュラムについて理解を深めるとともに、同じ方向性のもとに教育活動を進めていくことができるようにする。また、相互参観を計画的に実施し視点を設けることでより相互理解を図る。
- ・全町民に活動報告として、QRコード付けたリーフレットを作成して配布する。
- ・委託事業後の令和7年度からの活動に向けて組織を再編する。
- ・ケーブルテレビや町の広報紙を活用して、広報活動をする。
- ・人事異動による関係者の入れ替わりのため、引継ぎを工夫する。現段階ではカリキュラム概要版からハイパーリンクを設定して、活動内容がより詳細に把握できるようシステムを構築していきたい。



【サツマイモ収穫】